

平成 28 年度(第 60 回)  
岩手県教育研究発表会発表資料

社会／地歴・公民

中学校における主権者教育の在り方について  
～主権者教育における高等学校への  
円滑な接続を見据えて～

平成 29 年 2 月 10 日  
一 関市教育委員会  
一 関市立磐井中学校  
阿 部 信 博

はじめに

本校は、平成28年度から平成29年度の2年間、主権者教育推進モデル指定研究事業の研究拠点校として指定を受けている。この主権者教育推進モデル指定研究事業では、主権者として必要な資質や能力の育成に資することができるよう、授業実践を中心に研究を行い、その成果を県内に広く周知することが求められており、本校では社会科を中心に研究に取り組んでいる。本研究は、社会科において授業実践に取り組んだものの一端である。

## I 研究について

### 1 研究主題名

#### 中学校における主権者教育の在り方について

#### ～主権者教育における高等学校への円滑な接続を見据えて～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 主権者教育の今日的課題より

本校は、平成28年度から2年間、主権者教育推進モデル指定研究事業の研究拠点校の指定を受けた。この主権者教育推進モデル指定研究事業では、「主権者として必要な資質や能力」の育成に資することが求められている。

そもそも、主権者とはどのような意味か。「主権者」とは、『広辞苑 第六版』（岩波書店）によると「主権を有する者。日本国憲法下では国民。」とある。また、「主権」とは、「国家の政治のあり方を最終的に決める権利」とある。これらより、「主権者」とは、「国家の政治のあり方を最終的に決める権利を有する国民」と考える。では、「主権者として必要な資質や能力」とはどのようなものか。

平成27年に公職選挙法等の一部が改正され、同年公布された。それに伴い、選挙権が満20歳以上から、高校生を含む満18歳以上に引き下げられ、平成28年に行われた参議院議員選挙から実施された。それにより、未来の日本の在り方を決める政治について、より多くの世代の声を反映することが可能となったが、一方で、これまで以上に、国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、自身が課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力を育むことが重要となっている。また、根拠を持って自分の考えを主張し説得する力を身に付けていくことが求められている。これらが、「主権者として必要な資質や能力」であると捉えた。

教育基本法第14条第1項では、「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない。」とされており、選挙権年齢が引き下げられたことにより、学校においては政治的教養をはぐくむ教育を一層推進する必要がある。

文部科学省主権者教育推進プロジェクトによると、「次期学習指導要領改訂において、高等学校において主体的な社会参画に必要な力を実践的に育む「公共（仮称）」の設置や、小中学校における社会科の在り方について検討」が必要であるとされている。

そこで本校では、「中学校における主権者教育の在り方について」という研究主題を設定し、この主権者教育推進モデル指定研究事業のねらいに迫ることとした。

(2) 教育目標の具現化より

本校の教育目標は、

「豊かな心と創造性を持ち、心身共に逞しく自己を鍛える生徒の育成」

である。また、目指す生徒像として、以下の3つを定めている。

- 自ら求めて学び、未来を切り拓く生徒 = 「磨く知性」
- 自他を敬愛し、思いやりのある生徒 = 「豊かな感性」
- 自ら心身を鍛え、逞しく実行する生徒 = 「鍛える身体」

「磨く知性」とは「自ら求めて学ぶ」生徒の育成をめざすものであり、主権者として必要な資質や能力の育成と軌を一にしている。すなわち、主題を追究することは、教育目標を具現化することでもある。

(3) 生徒の実態から（平成28年度全国学力・学力状況調査の結果）

質問事項	岩手県	本校
「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」	51.0%	45.7%
「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」	94.7%	92.6%
「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」	67.3%	60.4%
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」	65.6%	64.4%
「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」	74.0%	69.8%
「生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」	79.8%	73.2%
「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」	71.8%	63.8%

岩手県と比較して話し合いを通して、自身が課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力や社会に参画しようという意識が低い。したがって、主権者として必要な資質や能力を育成する必要があると考える。

(4) 主権者教育の目的から

文部科学省「主権者教育の推進に関する検討チーム」中間まとめでは、主権者教育の目的を、「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」としている。この目的は、各教科の学習や特別活動等を通して、身に付けていくべきものであると考える。

以上、4つの観点から、本研究主題を設定した。

3 研究の目標

文部科学省によると、昨年度の高等学校の卒業生については、90%を超えるほとんどの学校において主権者教育が行われ、現在の在校生に対しても、特に3年生に対しては95%を超えるほぼ全ての学校が主権者教育に取り組む予定としている。そこで、高等学校への円滑な接続を見据え、中学校における主権者教育について、特に社会科の学習指導においてどのような指導を工夫すれば良いか、授業実践を通して明らかにしていく。また、主権者教育として位置づけるべき学習内容を精査し、明らかにしていく。

#### 4 研究計画

##### (1) 1年次 (平成28年度)

	研究推進内容 (役割分担)
4月	
5月	第1回連絡協議会、全体計画および研究実践計画書の作成についての説明
6月	○研究実践計画書提出 ・全体計画 (阿部)
7月	
8月	○年間指導計画の作成 (地理・歴史・公民)
9月	
10月	○先進校視察 (阿部、菊池、瀬川、川島) ◆研究授業① (菊池) ※拡大校内研
11月	◆研究授業② (川島)
12月	◆研究授業③ (瀬川)
1月	○発表レポート提出 (県研究発表会)
2月	◆研究授業④ (阿部) ※拡大校内研 ○中間発表 (県教育発表会社会科部会) (阿部、瀬川、川島、菊池) ○報告書提出 (阿部) ○総合教育センターHPへ掲載 (瀬川)
3月	○次年度研究への準備

##### (2) 2年次 (平成29年度)

	研究推進内容 (役割分担)
4月	第2回連絡協議会 (今年度の重点および年間スケジュールの確認)
5月	○アンケート調査 ○先進校視察
6月	◆研究授業⑤
7月	◆研究授業⑥
8月	
9月	◆研究授業⑦
10月	◆研究授業⑧ (公民) ※拡大校内研
11月	○アンケート調査
12月	○研究のまとめ ○研究のまとめ及び実践報告書作成
1月	
2月	○実践発表 (県研究発表会) ○報告書提出 (阿部) ○総合教育センターHPへ掲載 (瀬川)
3月	

#### 5 研究の内容と方法

- (1) 主権者として必要な資質や能力の育成を図る指導に関する基本構想 (文献法、先進校視察)
- (2) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」のアクティブ・ラーニングの3つの視点を取り入れた授業実践、授業改善 (授業実践、拡大校内研)
- (3) 実践の分析と考察 (観察法、質問紙法)
- (4) 研究のまとめ

## II 社会科における主権者教育の推進について

### 1 学習指導要領より

中学校学習指導要領における社会科の目標は、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」である。この中で、「国家・社会の形成者」とはすなわち主権者のことであり、「必要な公民的資質」とは主権者教育で育まれる主権者としての資質や能力と捉えた。一方、主権者教育の目的は、「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」である。また、「自身が課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力を育むこと」や「根拠を持って自分の考えを主張し説得する力を身に付けていくこと」も求められている。これはつまり、「主権者としての自覚を促すとともに、必要な知識を習得し、主権者として必要な思考力や判断力を育む」ことであると考えた。

また、各分野の目標(4)には、「多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。」とあり、公民的分野の目標(1)には、「国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」とある。以上のことから本研究では、主権者教育を特にも社会科の学習指導の中で行う必要があると考えた。

### 2 主権者として求められる力（「私たちが拓く日本の未来」（総務省・文部科学省）より）

間接民主制をとる日本では、一人一人が積極的に政治に参加すること、今後の日本社会は、公共的課題の解決に向けて多様な価値観をもつ他者と議論しつつ協働する主権者が求められている。

そこで、主権者として求められる力は、次のようなものである。

<b>1 論理的思考力（とりわけ根拠をもって主張し他者を説得する力）</b>
自分の意見を述べる際には根拠をもって説明することが重要であることを理解するとともに、異なる立場の意見がどのような根拠に基づいて主張されているかを検討し、議論を交わす力。
<b>2 現実社会の諸課題について多面的、多角的に考察し、公正に判断する力</b>
現実の社会においては様々な立場やいろいろな考え方が存在することについて理解し、それらの争点を知った上で現実社会の諸課題について公正に判断する力。
<b>3 現実社会の諸課題を見出し、協働的に追求し解決（合意形成・意思決定）する力</b>
お互いに自分の考えや意見を出し合い、他者の考えや価値観を受け入れたり意見を交換したりしながら、問題の解決に協働して取り組む力。
<b>4 公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度</b>
大きな社会変化を迎える中で、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きること、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していこうとする力。

### 3 学習方法

上記のような力を育むためには、生徒が主体になって他者と協働する能動的な学びに取り組むことが必要である。また、主権者としての資質や能力を育むため、実践的な学習活動を生徒に対して行う必要がある。実践的な学習活動を行う上で、取り入れたい学習方法をまとめると次のような3つが考えられる。

#### (1) 正解が一つに定まらない問いに取り組む学び

課題に対して、自ら根拠に基づいた主張を述べ、自分とは異なる立場の者の主張の根拠を読み取る力が身につく。

#### (2) 学習したことを活用して解決策を考える学び

これまでに習得した知識・技能を活用し、課題の争点を知り、解決策を考え、解決に向け行動する力が身につく。

- (3) 他者との対話や議論により、考えを深めていく学び

他者と協働して課題を解決していく中で、他者との対話や議論により、考えを深めていく力が身につく。

#### 4 アクティブ・ラーニングの取り入れについて

- (1) 文部科学省「主権者教育の推進に関する検討チーム」最終まとめより

「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」のアクティブ・ラーニングの3つの視点に立って学び全体を改善することは、「社会の中で自立し、他者と連携・協力しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養う」という主権者教育の目的に資するものであり、その一層の推進を図ることが期待される。

- (2) 次期学習指導要領より

2020年から全面実施される次期学習指導要領では、「育成すべき資質・能力」が求められている。学校教育法第30条第2項において、学校教育において重視すべき三要素は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」とされている。これをもとに、次期学習指導要領においては、育成すべき資質・能力を三つの柱として、整理されている。

○何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）

○知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

次期改訂の視点は、子供たちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということである。そのために、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるものの全てを、総合的に育む必要があるとされている。

そこで、アクティブ・ラーニングが期待されている。

思考力・判断力・表現力等は、学習の中で、思考・判断・表現が発揮される主体的・協働的な問題発見・解決の場面を経験することによって磨かれていく。また、身に付けた個別の知識や技能も、そうした学習経験の中で活用することにより定着し、既存の知識や技能と関連付けられ体系化されながら身に付いていき、ひいては生涯にわたり活用できるような物事の深い理解や方法の熟達に至ることが期待される。

以上より、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践及び授業改善を行い、さらに実践を積み上げていくことで、主権者教育の目的に近づくものとした。

#### 5 年間学習指導計画

※別紙

#### 6 先進校視察

- (1) 訪問先及び訪問日について

訪問先：埼玉県上尾市立東中学校

訪問日：平成28年10月14日(金)

- (2) 学校概要

さいたま新都心の北部に位置し、40年の歴史と伝統に支えられた学校である。全ての生徒、教職員が母校として学校に誇りを持ち、自身と誇りを持てる学校経営を目指している。2015年4月より文部科学省から研究開発学校の指定を受け、新たな教科「グローバルシティズンシップ科」が設立されており、毎

週金曜日の5・6時間目に実施されている。

(3) 「グローバルシティズンシップ科」について

配当時間：年間1年生50時間、2・3年生70時間 「総合的な学習の時間」を本科に充てている

学習形態：教師を「ファシリテーター※」とした参加型学習

※集団活動そのものに参加せず、あくまで中立的な立場から活動の支援を行う者

評価：学習した内容を踏まえ、ワークシート等やグループ活動のまとめからポートフォリオ評価を行い、文章記述で行う

(新教科「グローバルシティズンシップ科」設立に関する研究より)

グローバルシティズンシップ科では、目標を、①18歳選挙権に向けての社会参画意識の向上、②持続可能な社会づくりの担い手を育成、③他者と協働できる力を身につけるとしている。

1学期は、1年生は、ワークショップ体験を行い、その後、「環境」「難民」「国際協力」「福祉」の4つのテーマについて参加型学習を行った。2年生は、「職場体験学習」との連携を図り、「職」と「職」の相互関係を知り、「仕事」の成り立ちについて考えた。3年生は、「修学旅行」と連携を図り、「観光」「街づくり」「伝統」から1つの視点を選び、京都の町を歩いてアクションリサーチを実施した。2学期は、今までの学習の成果を生かし、「課題設定」「調査・分析」「発表・発信」の流れで学習を進めている。

(4) 視察内容

- ・1年生「新聞記者になろう」

新聞を書く作業を通して、新聞の読み方、情報収集の仕方を学び、メディアリテラシーの基礎を身に付ける学習を行っている。本時では、「編集会議」を開き、情報収集を行っていた。

- ・2年生「持続可能な社会の実現のために」

上記のタイトルから各クラスでテーマを設定し、学習を進めている。本時では、テーマ解決のために訪問先(各省庁)をどこにするか、iPadを活用し情報収集を行っていた。

- ・3年生「上尾をプロデュース」

自分たちの住む「上尾」をより良い街にするために自分たちがどのように関わっていくのか考えていく学習を行っている。本時では、テーマについて上尾市の政策評価を行っていた。

(5) 成果・感想

- ・グローバルシティズンシップ科の目標は、主権者教育の目標と同じであり、新しい学習を提言していく等、学ぶべき点は多々あった。

- ・毎週の総合的な学習の時間を利用しての学習が、学校全体で同一時間に行われている。生徒も学習に主体的に取り組んでおり、資料の読み取りや判断などの力が身についていた。

- ・情報機器(iPad等)が効果的に用いられていた。生徒が疑問に感じた時に、情報機器等ですぐ調べられるという環境は素晴らしかった。

7 具体的実践

各学年における実践を以下に示す。

(1) 1 学年地理的分野 ( 単元 世界の諸地域 「アフリカ州」 )

	学 習 活 動	指導上の留意点・資料等	「主権者として求められる力」との関わり
課題の把握 10分	<p>①【発問】ハゲワシのイラストまたは写真を提示し何という名前の鳥かを問う。</p> <p>②【発問】ハゲワシは何を食べるかを問う。 ◆死んだ動物</p> <p>③【発問】少女を紙で隠した「ハゲワシと少女」の写真を提示し、何を狙っているかを問う。 ◆何かの動物</p> <p>④【解説】少女、まだ生きている、タイトルが「ハゲワシと少女」、当時のスーダンで撮影されたことを知らせる。 ◎母親が食料を手に入れようと少女を地面に置いた短い時間に撮影され、その後、撮影者はハゲワシを追い払い、少女は立ち上がり母親のもとに歩き始めた。</p> <p>⑤【課題1】</p>	<p>①ハゲワシの写真 (イラスト)</p> <p>③生徒から出ないときは、教師からおろす。</p> <p>③深く考えさせないうちに紙をはがす。 ※プリント配布</p> <p>④必要であれば、◎のことも加えて説明する。</p>	
追究 ① 15分	<p>⑥【自分の考えを書く】→発表 ◆病気、飢え</p> <p>⑦【発表】⑥の現象が起こるのはなぜなのか、原因を班で話し合い発表する。 原因◆砂漠化、病院がない、薬がない、貧困、内戦</p>	<p>⑥平均寿命の表を参考にしてもよい</p> <p>⑦現象だけが発表された場合、なぜそのような現象が起きるのか (原因) を問い直す。</p>	○意見を伝え、意見を聞く
追究 ② 20分	<p>⑧【課題2】</p> <p>⑨【自分の考えを書く】→【班で発表し合う】 ◆食べ物を送る、お金を送る、内戦をやめさせる、省エネに努める、工業化を進める、フェアトレードを増やす、モノカルチャー経済からの脱却</p> <p>⑩【発表】時間があれば発表。</p>	<p>⑨テーマを絞らず、自分の考えを書かせ、発表の際に様々な捉え方があることに気付かせる。 そのように考えた理由も添える。</p>	○意見を伝え、意見を聞く
まとめ 5分	<p>⑪【まとめ】班で話し合ったことを踏まえて、もう一度自分の考えをまとめる。</p> <p>⑫【発表】書いた内容を発表する。</p>	<p>⑪「誰が」「どうやって」を明確にすることを伝える。</p>	



(2) 1 学年歴史的分野 ( 単元 中世の日本 「鎌倉時代の文化と宗教」 )

	学習活動	指導上の留意点	「主権者として求められる力」との関わり
課題の把握 10分	<p>1 金剛力士像の印象をことばで表してみよう</p> <p>【発問】 あつしさんの「これまでの仏像とちがうみたいだね」の問いに答える。 「力強い」「怖い」「大きい」</p> <p>【説明を聞く】</p> <p>2 運慶による金剛力士像で、新しい様式、文化が生まれた。 高さ8m、寄木造り このような、鎌倉時代の文化とはどんな文化でしょうか。</p> <p>3 学習課題の設定</p>	<p>資料カード提示</p> <p>ノートに書かせる</p> <p>板書する</p>	
課題の追究 30分	<p>4 鎌倉仏教の特徴を調べる。</p> <p>【説明を聞く】 新しい仏教が生まれた。</p> <p>【発問】 鎌倉仏教の特徴はそれぞれ何だろう。また、本文と図表 (p75) から読み取り、2つに分類してみよう。</p> <p>【作業】 個人でノートにまとめる。 ・極楽浄土に生まれ変わる ・人や国が救われる ・悟りをひらく ・法然・親鸞・一遍・日蓮 (念仏・題目) ・栄西・道元 (座禅)</p> <p>【話し合い (班)】 個人のまとめを発表し、班でまとめる。</p> <p>【説明を聞く】 ・念仏、題目、座禅</p> <p>【発問】 主にどんな人々に広まったのだろうか。それはなぜだろう。 話し合い (班) →生徒の反応 「武士」「民衆」 理由…「座禅をするから」「楽だから」</p>	<p>板書 読みの確認</p> <p>ノートのまとめ方の説明 板書</p>	<p>論理的思考力 協働的に追究し解決する力</p> <p>論理的思考力</p>
まとめ 10分	<p>5 鎌倉時代の文化の特色は何だろうか。</p> <p>【話し合い (班)】 個人の考えを発表し、班でまとめる。  生徒の反応→「武士の文化」「たくましい」「わかりやすい」「誰にでもできる」など</p> <p>【発展】 ほかにはどんな文化があるだろうか。調べてみよう。 「新古今和歌集」 武士や僧の和歌</p> <p>【平家物語】 軍記物語。武士の活躍 「徒然草」 民衆の姿</p>	<p>ノートに書く</p>	<p>論理的思考力 正解が1つに定まらない 問いに取り組む</p>

(3) 3学年公民的分野 ( 単元 私たちの暮らしと民主政治 「地方自治と住民の参加」 )

	学習活動	指導上の留意点	『主権者として求められる力』との関わり
課題の把握 15分	<p>1 人口減少に伴い、さまざまな影響が想定されていることを理解する。</p> <p>人口減少→経済・医療・福祉・介護・教育 文化・財政・生活などへの影響</p> <p>2 学習課題の設定</p>	<p>1 資料A『一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の資料から読み取らせる。</p> <p>人口減少と影響について、生徒との対話から引き出すようにする。</p> <p>2 課題を板書する</p>	
	<p>一関市の問題点に対して、どのような取り組みを行ったら良いのか？</p>		
課題の追究 25分	<p>3 どのような取り組みを行ったら良いと思うかを考え、発表する。(予想する) (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てを支援する。</li> <li>・結婚をサポートする</li> <li>・医療費を無料にする。</li> </ul> <p>4 資料から、一関市が、問題点に対してどのように取り組んでいるかを調べる。</p> <p>(1) 個人で調べる。(6分)</p> <p>(2) 班で調べた結果を交流しあい、一関市の問題点解決に効果的だと思うこと考える。(8分)</p> <p>《調べる視点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少に対する取り組み</li> <li>・経済に対する取り組み</li> <li>・医療、福祉、介護に対する取り組み</li> <li>・教育、文化に対する取り組み</li> <li>・財政に対する取り組み</li> <li>・生活(利便性)に対する取り組み</li> </ul> <p>5 調べた結果を発表する。(6分)</p>	<p>3 個人で考えさせ、発表させる。</p> <p>4 資料B『一関広報 まちづくり正念場』(抜粋)から、一関が取り組んでいる施策を読み取らせる。</p> <p>(1) 個人で調べさせる。取り組みが、課題の解決につながると考えた理由・根拠を明確にさせる。(学習プリントに記入させる)</p> <p>(2) 班で交流しあったものの中から、効果的だと思う取り組みを2つ選択させる。(理由・根拠を明らかにさせる)</p> <p>5 調べた結果を各班の代表者に発表させる。取り組みが、課題の解決に効果的であると考えた理由・根拠を明確にさせる。</p>	
まとめ 10分	<p>6 課題について、自分が一関市のために行いたいと思うことを具体例をあげながらまとめ、発表する。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(まとめ～例～)</p> <p>私は、一関市の、地域経済の低迷という問題点に対して、地元の商店街で買い物をするようにして、商店街を盛り上げたいと思う。</p> </div>	<p>6 一関市の取り組みを参考にさせながら、中学生が一関市のためにできることは何かを考えさせる。考えることが難しい生徒へは、事例をあげて指導し、支援する。</p>	<p>○公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度</p>

### Ⅲ 今年度の成果と課題

#### 【成果】

- (1) 主権者教育の在り方についての研究を進め、地理・歴史・公民のすべての分野で研究授業を行うことができた。また、授業実践を通して中学校社会科における主権者教育の授業の在り方を探ることができた。
- (2) 今年度は、年間学習計画等の作成を通して、主権者教育として位置づけるべき学習内容を整理し、来年度の授業実践の方向性をつかむことができた。
- (3) 先行研究や先進校視察、高等学校の授業参観等を行い、主権者教育に関わる情報・資料を集め、研究に反映させることができた。
- (4) 正解が一つに定まらない問いに取り組む学習では、意見交流が活発に行われ、社会的事象を積極的に考えていくことができた。

#### 【課題】

- (1) 中学校として、初めての取り組みのため、情報収集等にたいへん時間がかかり、計画的に取り組むことが難しかった。
- (2) 地理的分野および歴史的分野での学習の位置づけが難しく、そのため教材開発も不十分であった。次年度へ向け、今後は各分野の全体指導計画を再検討し、学習内容をさらに精査できるよう継続して取り組んでいく。
- (3) 他者と協働して課題を解決する学習では、考えを深めていく活動の具体的な手立てを検討していく必要がある。

#### おわりに

本研究に取り組むことにより、これまでの自分の実践や研修等で学んだことを整理し、生徒のための実践はどうあるべきか考える良い機会を与えていただいたことに感謝いたします。また、本研究の推進を支えてくださった本校の職員に感謝いたしますとともに、ご指導、ご助言をいただいた指導主事の先生方に厚く御礼申し上げます。次年度も、さらに研究を積み上げ、成果をあげられるよう努力してまいります。